

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①		花いっぱい運動の推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	企画商工観光課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容		観光地としての魅力的な景観形成を図るため、国道及び県道沿い等に花木の植付を行う。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,416	9,416	11,302	8,516	8,734
		(b) 予算現額	9,416	9,416	11,302	8,516	8,734
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	9,416	9,416	11,302	8,516	8,734
	B. 執行済額		9,078	9,284	11,151	8,478	8,726
	うち交付金充当額		7,262	7,427	8,921	6,782	6,981
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.4%	98.6%	98.7%	99.6%	99.9%
予算の状況の説明		当初の計画通り花木の植付を行い、事業は適正に執行できた。不用額8千円については、委託の入札残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	プランターへの植付=1191基	目標	(1,221基)	(1,191基)	(1,191基)	()	
		実績	1,221基	1,191基	1,191基		
	町花壇、観光アクセス道路沿い植栽マスの植付	目標	()	()	(植栽マスの植付実施)	()	
		実績			植栽マスの植付実施		
達成状況説明	町内各種団体や町民ボランティアから成る「本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会」により、国道及び県道沿い等に設置したプランター1,191基に年3回花木の植付を行った。また、町花壇、観光アクセス道路沿い植栽マスへも花木の植付を行い、目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	観光地として魅力的であると感じる人の割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を観光客を対象としたアンケートで検証する。	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		97%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	観光客の満足度について、本町の主要観光地である海洋博公園でアンケート調査を実施した。集計した結果、「観光地周辺に展示されている草花や花木に対する「満足度」をお答えください。」という設問に125名の方から回答をいただき、そのうち97%の観光客から満足したとの回答が得られ、目標値を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>プランターの植付だけでなく、沿道の植栽マスへの地植えを行うことにより、花いっぱい空間が広がったこと、また、植付を行っている本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会を中心とした町内の各種団体や町民ボランティアの環境美化に対する意識が高まり、水遣りや除草等、草花の維持ができているプランターが増えたことが目標値達成の要因と考える。</p> <p>一方で、ボランティアの確保ができずにプランターの維持管理(除草、水遣りなど)に苦慮している地域、場所もまだ見受けられる。</p>	<p>プランターの花植え・管理については、委託先及び本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会において、維持管理ができていない場所やボランティアの状況について情報共有していく必要がある。</p>

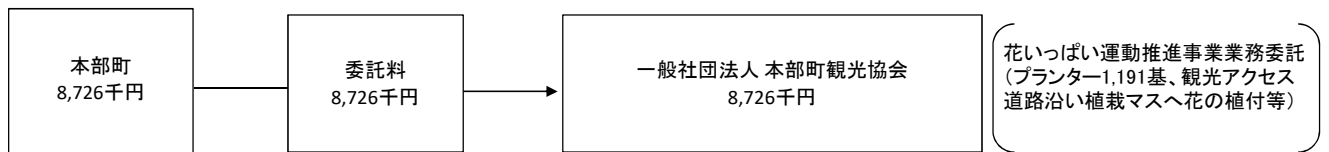
今後の取り組み方針

管理に苦慮しているプランターについて情報共有し、維持管理が可能な他の観光アクセス道路への配置換えも検討する。

花いっぱい運動の推進事業について、アンケート調査により、拡大したほうが良い32%、継続したほうが良い68%の回答を得た。次年度も引き続き委託先、協議会と連携しながら観光地として魅力ある景観形成に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,726	8,726	6,981	1,745	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は観光振興を目的として沿道美化活動の実績がある本部町観光協会を主体としており妥当と考える。また当該契約は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定により随意契約としている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○積算については、複数者見積によるものとなっており妥当と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途に関しては額の確定時において確認を行い適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

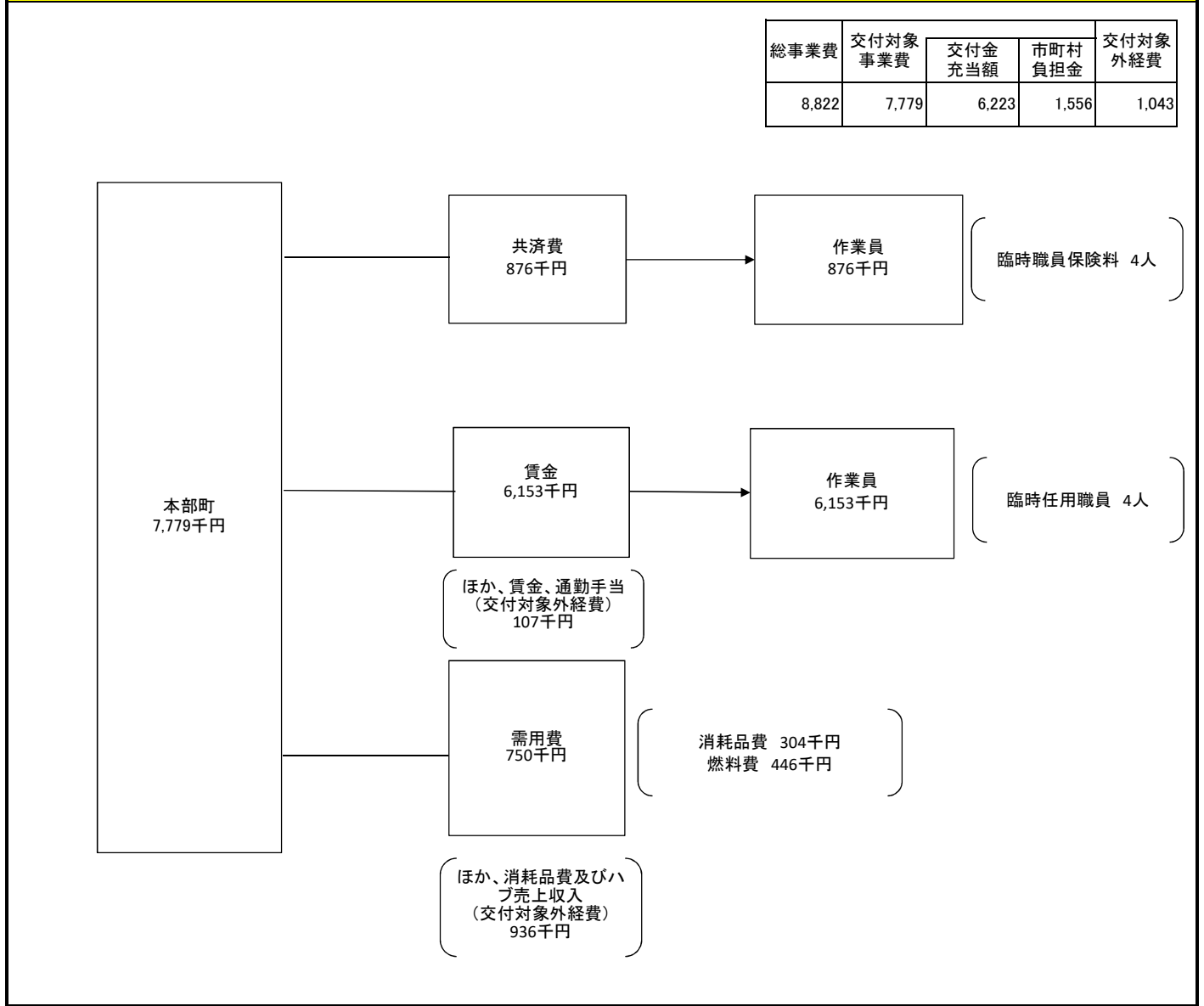
市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	ハブ咬傷防止事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部署名	健康づくり推進課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	<p>台湾ハブ等捕獲器設置・回収を行うことにより、個体数の減少及び拡大する生息域の抑制を図り、地域住民や観光客の咬傷事件を予防し、安全・安心な観光地づくりを目指す。</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		7,702	7,907	7,931	9,128	7,878
			7,702	7,907	7,980	8,628	7,878
			0	0	49	▲ 500	0
			-	-	-	-	-
	B. 執行済額	6,466	6,453	6,306	7,012	7,779	
	うち交付金充当額	5,172	5,162	5,045	5,610	6,223	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	84.0%	81.6%	79.0%	81.3%	98.7%	
	予算の状況の説明	捕獲した台湾ハブ等の売り上げ収入増等により、不用額99千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	ハブ捕獲器を町内約350カ所に設置	目標	(150カ所)	(200カ所)	(350カ所)	(350カ所)	
		実績	150カ所	200カ所	300カ所	350カ所	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	台湾ハブ等の捕獲数の多い地域へ重点的に捕獲器設置を行った。また、台湾ハブ等の生息域の拡大が懸念される地域の見極めのため、捕獲器設置エリアを拡大した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	ハブによる咬傷被害件数0件	目標	()	()	()	(0件)	()
		実績				0件	
	【参考指標】ハブ年間捕獲数	目標	()	(200匹)	(250匹)	(300匹)	()
実績			309匹	367匹	679匹		
進捗状況説明	台湾ハブ等は冬眠を行わないため、夏場だけでなく冬場も注意するよう広報誌をとおして注意喚起を行ったこともあり、咬傷被害件数0件を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・タイワンハブの生息見極めのため、生息が懸念される地域へ捕獲器設置エリアを拡大したが、タイワンハブは捕獲されなかった。 ・タイワンハブ等の捕獲数が多い地域へ重点的に捕獲器設置を行った結果、タイワンハブ等の捕獲数が前年度と比べて大幅に増加している。 ・咬傷被害防止の取り組みとして、夏場だけでなく冬場もタイワンハブ等に注意するよう、ホームページや広報誌を通じて注意喚起を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕獲器設置を拡大したエリアについては、生息域の拡大は確認できなかったが、今後もタイワンハブの生息域の見極めを継続し、生息域を把握する必要がある。 ・重点的に設置を行った箇所については、未だ捕獲器設置数が足りない可能性があるため、設置を増やし、捕獲数の増減について注視しながら設置数の調整を図る必要がある。 ・タイワンハブ等の捕獲数が増加しているため、さらなる注意喚起等の予防対策が必要である。

今後の取り組み方針

- ・タイワンハブ等の生息域の拡大が懸念される地域への捕獲器設置を継続して行き、生息域把握に努める。
- ・捕獲数の多い地域への捕獲器設置についてさらなる重点化を図り、固体数の減少を目指す。
- ・咬傷被害防止のため、タイワンハブ等の生息や咬傷被害が懸念される地域へ看板を設置することにより、観光客にも注意喚起を行い安全・安心な観光地の形成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流点、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○作業員は知識、実績等を提案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額は事業費の1.3%であり適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途についてはハブ捕獲で使用するマウスの飼料費や捕獲器購入など、事業目的達成の観点から必要なものである。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③		伝統興行観光化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
	担当部署名	企画商工観光課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり	
事業内容		沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を観光資源として活用するため、ナイター闘牛や闘山羊大会を定期開催する。					Ⅲ-1-(1)	
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H27年度(繰越)	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,010	-	40,969	26,195	5,079	
		(b) 予算現額	54,293	-	42,840	42,928	5,078	
		(c) 増減額(b-a)	49,283	-	1,871	16,733	▲1	
		(d) 繰越額	-	31,760	-	-	-	
	A. 計(b+d)		54,293	31,760	42,840	42,928	5,078	
	B. 執行済額		21,353	31,750	32,801	42,923	5,078	
	うち交付金充当額		17,082	25,400	26,241	34,338	4,062	
	次年度繰越額		31,760	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		39.3%	100.0%	76.6%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算額のとおり執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	伝統興行の実施:2回		目標	(3回)	(3回)	(2回)	(2回)	
			実績	3回	3回	2回	2回	
			目標	()	()	()	()	
			実績					
達成状況説明	今年度より、もとぶ観光文化フェスタ実行委員会にイベント開催を委託し、2回イベント開催をすることができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	闘牛・闘山羊大会来場者数:800人		目標	()	(1,377人)	(1,245人)	(800人)	()
			実績		1116人	611人	768人	
			目標	()	()	()	()	()
			実績					
	進捗状況説明	旅行会社とタイアップした企画を実施したこともあり、バスツアーの団体客を確保することができたが、個人観光客への周知が不足しており目標の96%の達成率となった。						

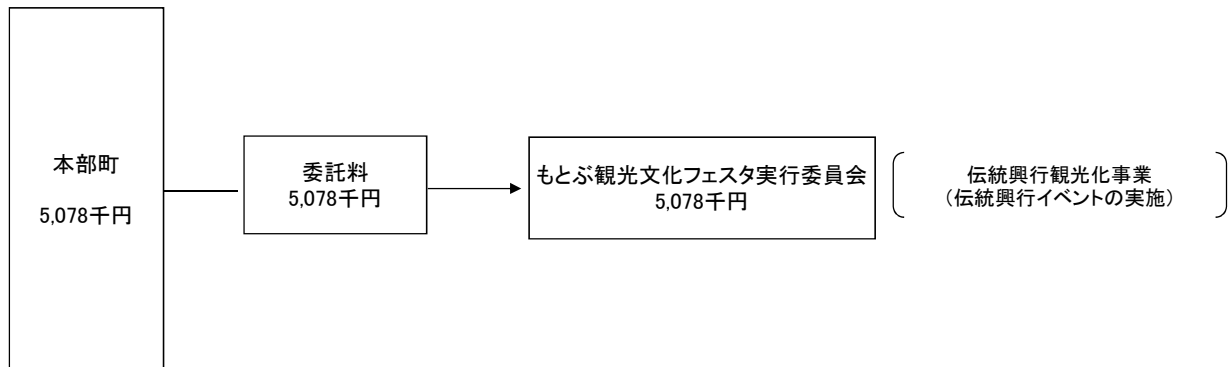
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度までは本部闘牛組合、瀬底島ピージャーオーラサイ保存会がイベントを開催していたが、今年度から本部町観光協会が中心となって実行委員会を組織している。観光協会が中心となったことでパッケージツアーの企画等が可能になり、団体客を確保することができたが、ツアー以外の観光客数が伸びなかった。 ・団体客のバスの駐車場がイベント会場にないため、隣接施設に駐車することとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人旅行者の来場を増やすため、インターネットのSNS等を活用して集客を図る必要がある。 ・バスツアー客は団体行動が前提となっており、利便性向上や安全確保のためにも、イベント会場に隣接した駐車場を確保する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・委託先のもとぶ観光文化フェスタ実行委員会は観光協会が中心となっていることから、観光関連事業者との連携を図り、観光協会や各事業者のHPやSNS等を活用したイベント告知を行い、個人旅行者を増やす取組を行う。
- ・観光バスの駐車場を隣接地に確保するため、調査・設計を早期に行い、団体客の受入環境を整える。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
5,078	5,078	4,062	1,016	0



資金の流 れ 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○イベント実施を委託した団体は、地域団体を選定する必要があり入札では対応できないため、随意契約で妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額もなく適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査しており、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町
------	-----

平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	八重岳観光拠点整備事業	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ
担当部署名	企画商工観光課	事業実施(予定)年度 平成25~30年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制整備
				Ⅲ-1-(1)

事業内容
日本一早い桜まつりとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れており、今後も本町の主要観光拠点として活用するため、親水性護岸整備を行う。

効果発現年度
 当年度 後年度

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

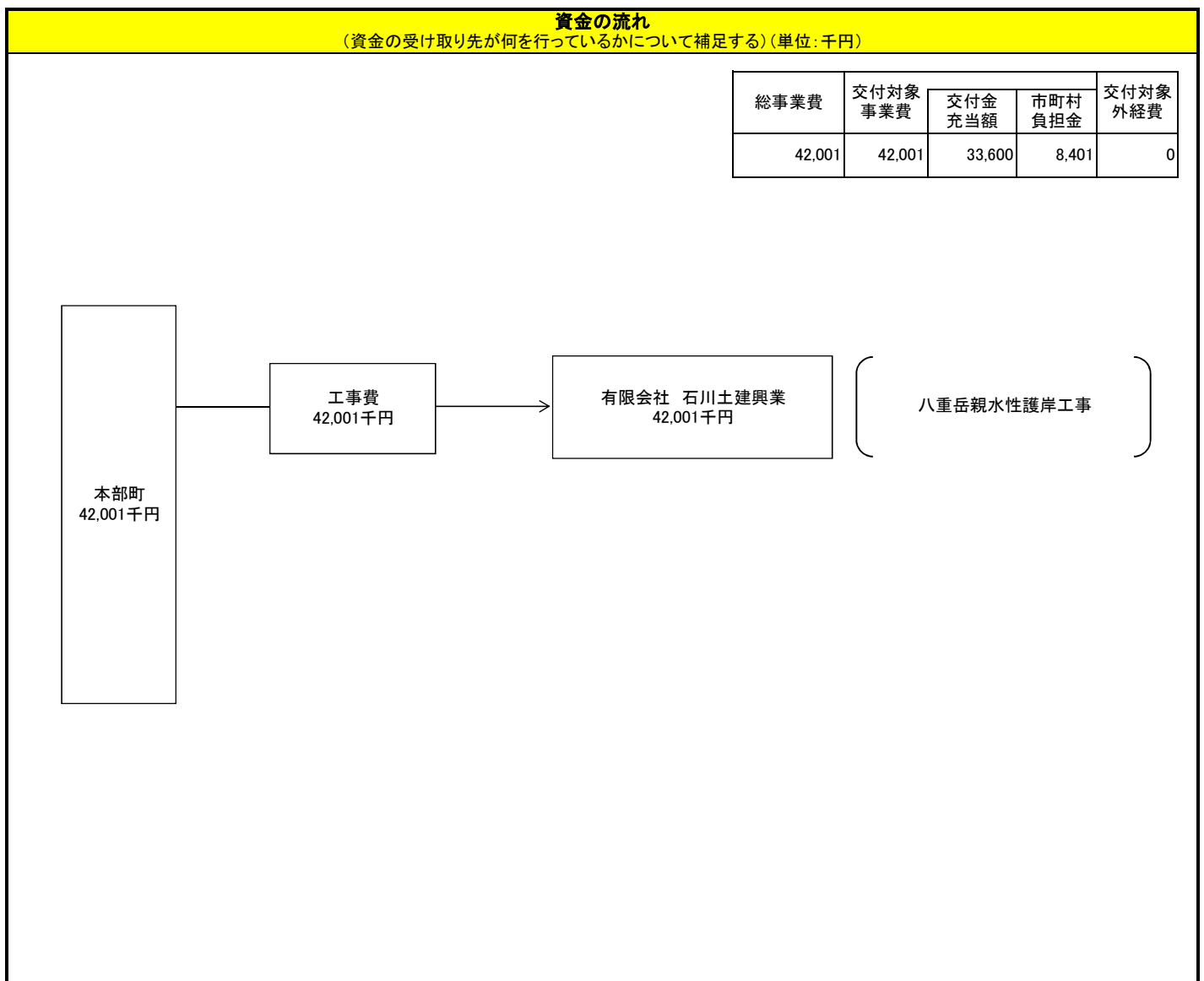
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H28年度(繰越)	H29年度	H30年度	R1年度
		(a) 当初予算額	131,686	—	42,120	34,000
(b) 予算現額	131,686	—	68,715	42,001		
(c) 増減額 (b-a)	0	—	26,595	8,001		
(d) 繰越額	—	119,188	—	—		
A. 計 (b+d)	131,686	119,188	68,715	42,001		
B. 執行済額	12,312	119,187	67,608	42,001		
うち交付金充当額	9,849	95,350	53,146	33,600		
次年度繰越額	119,188	0	0	0		
執行率 (%) (B/A)	9%	100%	98%	100%		
予算の状況の説明	当初額34,000千円に対し、工事施工箇所に延長が生じたため、8,001千円の補正増となった。					

活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況			
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
親水性護岸整備工事の実施	目標	()	()	()	(親水性護岸整備工事の実施)
	実績				親水性護岸整備工事の完了
【参考指標】 排水工事の実施 伐採工事の実施 広場整備工事の実施 用地測量及び用地取得 東屋整備 遊具設置工事の実施 1式	目標	排水工事L=300m 広場整備工事 (A=6,000㎡) 用地測量及び用地取得A=4,348㎡	排水工事L=430m 広場整備工事 (A=6,000㎡・東屋1基)	(遊具設置工事の実施 1式)	()
	実績	排水工事L=202m 広場整備工事 A=6,400㎡ 用地測量及び用地取得A=5,109㎡	排水工事L=460m 広場整備工事A=6,000㎡・東屋1基	遊具設置工事の実施 1式	
達成状況説明	H25年度から実施している親水性護岸整備について、今年度は110mの整備を行い、これにより全箇所の施工を完了することができた。。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
			H30年度桜まつり来場者数160,000人以上	目標	()	()
	実績				127,699人	
【参考指標】 排水工事の実施 広場整備工事の実施 遊具設置工事の完了	目標	()	排水工事L=430m 広場整備工事 (A=6,000m2・東屋1基)	(遊具設置工事の完了 1式)	(排水工事L=110m)	()
	実績		排水工事L=460m 広場整備工事 A=6,000m2・東屋1基	遊具設置工事の完了 1式	排水工事L=110m	

進捗状況説明
H30年度の桜まつり来場者数は、目標値の約80%に留まった。平成29年9月末の台風24号と25号の塩害などの影響により、花見期間中の開花状況が例年よりも悪かったため、来訪者が少なくなったと思われる。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>排水路工事を行うことにより、八重岳のメイン道路に接している護岸整備ができ、機能強化され利用者が安全に通行ができるようになった。</p> <p>桜まつり来場者数については、その年の開花状況や近年の観光ツアー離れが考えられるが、特に平成29年の台風の塩害が大きな要因となっている。一方、平成30年の台風24号では最大1時間降水量が41.5mmあったが、当事業のこれまでの取り組みにより排水路が整備されていたため、法面の桜には大きな影響は見られなかった。</p>	<p>台風等における桜の開花被害については抑制することが困難であるが、護岸整備により水害の被害が解消され、来場者の安全が確保されたこと等を踏まえ旅行会社などへのPRを行い、来場者向上に努める。</p>
今後の取り組み方針		
<p>定期的に清掃活動等を行い安全に活用できるように維持管理に努める。さらに八重岳の魅力を広く発信するため、広報誌やホームページ、旅行会社などを活用し、遊具や親水性護岸について積極的にPRを行っていく。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模について事業内容と見合っており適正であった。</p> <p>○費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑤	本部町観光振興基本計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	企画商工観光課	事業実施(予定)年度	平成30~令和1年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本町の観光振興を推進するため、これまでの施策の検証を行うとともに、町の観光振興の指針となる観光振興基本計画を策定する。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	5,487					
		(b)予算現額	5,487					
		(c)増減額(b-a)	0					
		(d)繰越額	-					
		A.計(b+d)	5,487					
		B.執行済額	5,184					
		うち交付金充当額	4,147					
		次年度繰越額	0					
		執行率(%) (B/A)	94.5%					
予算の状況の説明		計画通り予算を適正に執行できた。不用額303千円は、受託事業者の価格提示によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況						
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度			
	観光振興基本計画基礎調査の実施	目標	(基礎調査実施)	()	()	()		
		実績	基礎調査実施					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	町民2,000人及び観光関連事業所に対するアンケートを実施し、町への要望やニーズ把握、観光施策に対する意見等を収集し、分析を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R2年度)		
		目標	()	(検証完了)	()	()	()	
	実績		検証完了					
	【R2成果目標】 策定する観光振興計画の中で、主要観光地の入込客数等、観光振興に係る目標値を設定し、当該目標に向けた観光振興施策を実施する。	目標	()	()	()	()	(実施)	
進捗状況説明	アンケートや事業者ヒアリングの結果から、現状の課題、観光施策の要望などを把握し、庁内関係課での検討会議を実施し次期観光振興基本計画策定に向けた検証を行った。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>町民アンケートの実施については、短期間であったが20%の回答があり、観光客に対する課題などの抽出、観光施策の要望などを把握することができた。また、事業所ヒアリングから観光施策の取り組み状況や今後の留意点等について把握することができた。今後は、本町を訪れる方からの意見について把握する必要がある。</p>	<p>本町への来訪者からより多くの意見を聴取し、町民が求める観光施策の要望と来訪者ニーズを照らし合わせ、一過性の企画提案にならないよう計画策定の検討をおこなう。</p>
今後の取り組み方針		
<p>次年度の本部町観光振興基本計画策定にあたっては、取り組んできた施策の検証や町民アンケート及び事業所ヒアリング等の基礎調査を踏まえ、来訪者のニーズ等を把握したうえで、町民等も一体となり一過性の事業にならないよう計画策定に取り組んでいく。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
5,184	5,184	4,147	1,037	0
<pre> graph LR A[本部町 5,184千円] --> B[委託料 5,184千円] B --> C[玉野総合コンサルタント株式会社 5,184千円] subgraph D [本部町観光振興基本計画基礎調査委託] C end </pre>				

資金の 用途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織や業務実績、企画などを勘察したうえで選定しており、妥当である。</p> <p>○事業内容に沿った予算規模であり、妥当である。</p> <p>○実績において必要なものなのかについて検査、確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	園芸農業防災施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～令和元年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 III-1-(6)	
事業内容	沖縄県では台風の襲来や病害虫の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業者等で組織する団体へ補助金を交付し、台風対策用のハウス等の施設の導入を行い、農業生産物の出荷量向上を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,712	14,072	22,476	22,406	16,596
		(b) 予算現額	21,712	13,218	22,476	19,709	16,596
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 854	0	▲ 2,697	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計 (b+d)	21,712	13,218	22,476	19,709	16,596
	B. 執行済額		20,314	13,218	19,581	18,662	14,774
	うち交付金充当額		16,251	10,574	15,664	14,929	11,819
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		93.6%	100.0%	87.1%	94.7%	89.0%
予算の状況の説明		執行率は89%だが、不用額1,822千円は事業主体の入札残によるものであり、事業は計画どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	農業用施設整備の支援	目標	()	()	()	(支援)	
		実績				支援完了	
	【参考指標】 ビニールハウスの整備件数	目標	(3件)	(5件)	(5件)	(3件)	
		実績	3件	5件	4件	3件	
達成状況説明	目標どおり支援を実施し、3件の強化型パイプハウスを整備することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
	強化型パイプハウス設置の完了	目標	()	(設置)	()		()
		実績			設置完了		
	【R1成果目標】 にがうり出荷量1,800kg以上(1棟あたり)	目標	()	()	()	()	(1,800kg以上)
		進捗状況説明	強化型パイプハウス設置の完了により、台風等の自然災害に強い安定した生産基盤を確保することができた。				

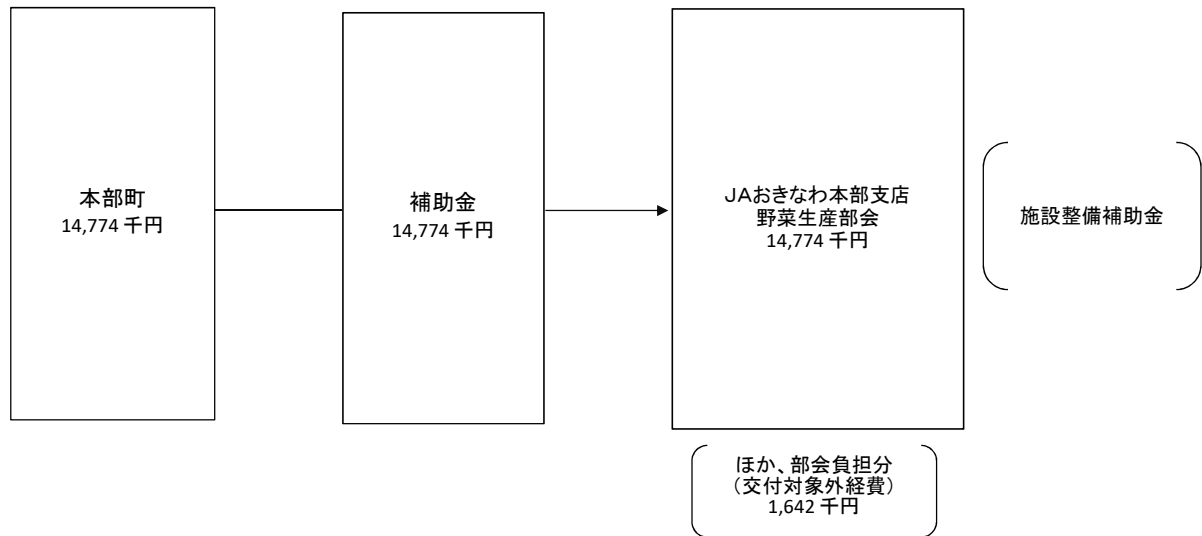
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予定者の辞退により、新たな対象者の選定に時間を要したため、事業に遅れが生じた。 ・台風対策用のハウス等の施設を整備することで、安定した生産基盤を確保することができた。今後はR1年度の成果目標達成に向けて、収量の向上に取り組んでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の辞退等にも柔軟に対応できるよう、事業主体と検討する。 ・収量を増やすためには、農家の技術向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

- ・事業実施に遅れが生じないよう、対象者を選定する段階で保留者も決めておくなどの検討を行う。
- ・実施主体と協力して農家への営農指導や研修会を開催し、農家の栽培技術の向上を図る。
- ・今後とも町内農家の動向を注視し、施設整備の要望または需要があれば継続して事業の導入を検討する。作物についても野菜に限らず果樹など農家の要望に柔軟に対応することを検討する。

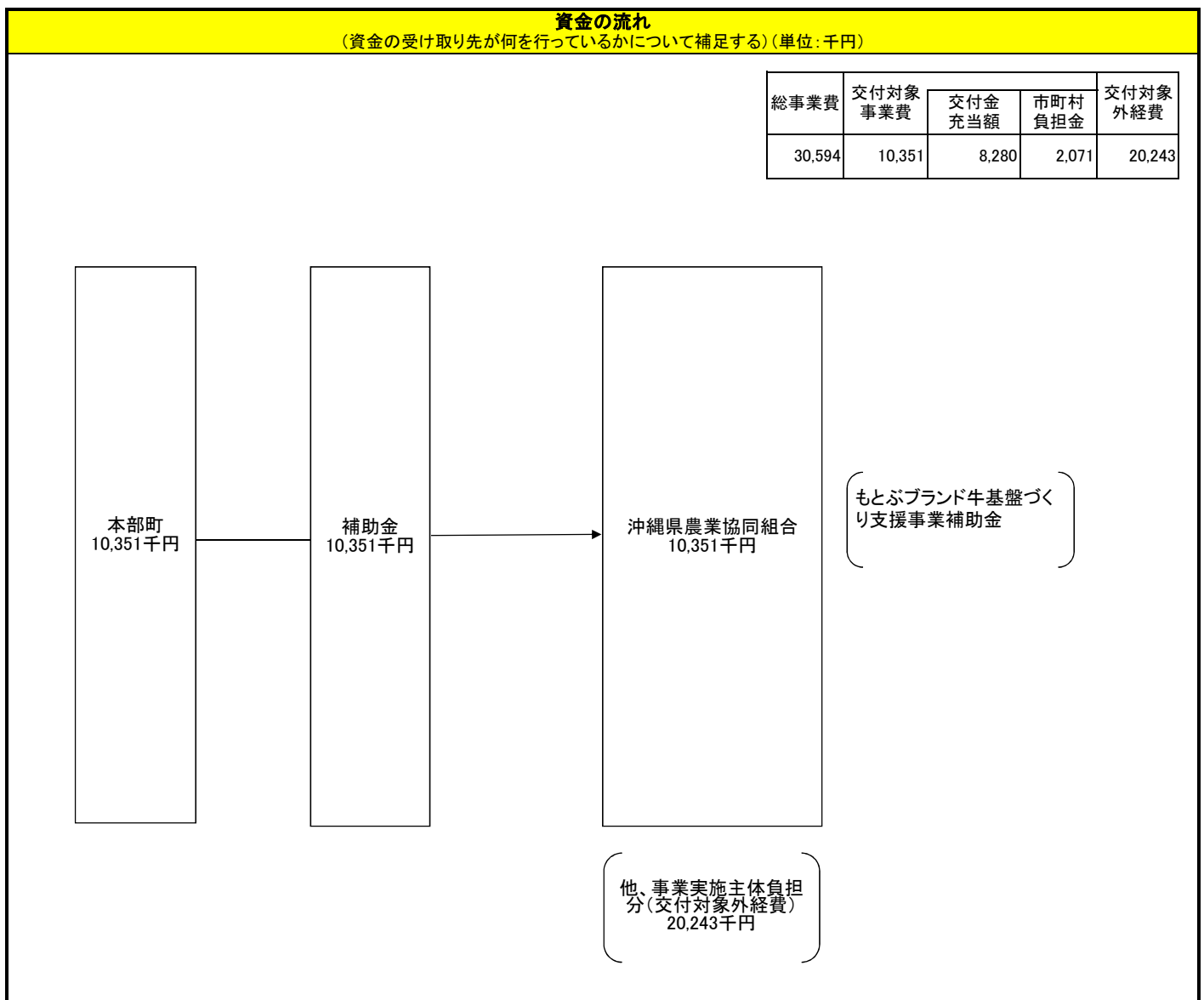
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
16,416	14,774	11,819	2,955	1,642



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○交付条件を満たす農協若しくは農業者で組織する団体を補助対象としており、選定は妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、不用額は、実施主体の入札残によるものであり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、実施要領に基づき負担をさせており妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については確定時に確認を行い、目的に即し、必要なものであったと判断した。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>高値で取引されている血統を導入することにより、生産基盤の強化が図られたことが目標達成の要因と考えられる。しかしながら、昨年度に比べると子牛の価格差が2%減少しており、原因として損徴(外見上の瑕疵)がある子牛が多かったことが考えられる。</p>	<p>種雄牛の組合せを変えることで、市場評価の高い子牛を生産し価格向上につなげる必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>関係機関等と連携し、損徴が多い血統の組合せの情報を共有することで、市場評価の高い血統の子牛を生産し、引き続き生産基盤の強化を図る。</p>		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業規模及び内容に見合った適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○当該事業は公共性、公益性が高い事業であることから、負担割合は妥当であると考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なもの等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③		メイドイン・もとぶ産品成長産業化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
	担当部署名	企画商工観光課		事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化
事業内容	特産品取扱事業者に対する物産展等への出展支援、販売支援員の配置等を行い、町特産品の販路開拓・拡大を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,751	12,421	12,421		
		(b) 予算現額	11,784	12,421	12,421		
		(c) 増減額(b-a)	33	0	0		
		(d) 繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)		11,784	12,421	12,421		
	B. 執行済額		5,872	11,732	10,392		
	うち交付金充当額		4,697	9,385	8,313		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		49.8%	94.5%	83.7%		
予算の状況の説明		不用額2,029千円については人員不足による人件費や需用費等の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	・商工会への支援の実施 メイドインもとぶ産品のリスト化	目標	(もとぶ産品のリスト化)	(もとぶ産品のリスト化)	(もとぶ産品のリスト化)	()	
		実績	13業者の商品をリスト化	8業者の商品をリスト化	8業者の商品をリスト化		
	メイドインもとぶ産品のPR及び販売の支援	目標	(PR及び販売支援)	(PR及び販売支援)	(PR及び販売支援)	()	
		実績	5回支援	5回支援	5回支援		
県内物産展等への出展支援	目標	(出展支援(5回))	(出展支援(5回))	(出展支援(5回))	()		
	実績	5回支援	5回支援(県内4、県外1)	5回支援(県内4、県外1)			
達成状況説明	昨年度に続き、物産展等への出展支援を5回(内1回は県外)実施することができた。また、作成したもとぶ産品のリストを基に、物産展や町内販売店へ配置した販売支援員による特産品のPRを行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	新規取引契約数 10件以上	目標	()	(10件)	(10件)	(10件)	()
		実績		10件	10件	11件	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	販売支援員の活動により新規の取引契約を交わした特産品等は延べ11件であり、目標としていた件数を達成し販路拡大に寄与することができた。また、販売支援を行うことで広く町特産品の特性、効用などを紹介することができ、インターネットによる受注増加にも繋がった。						

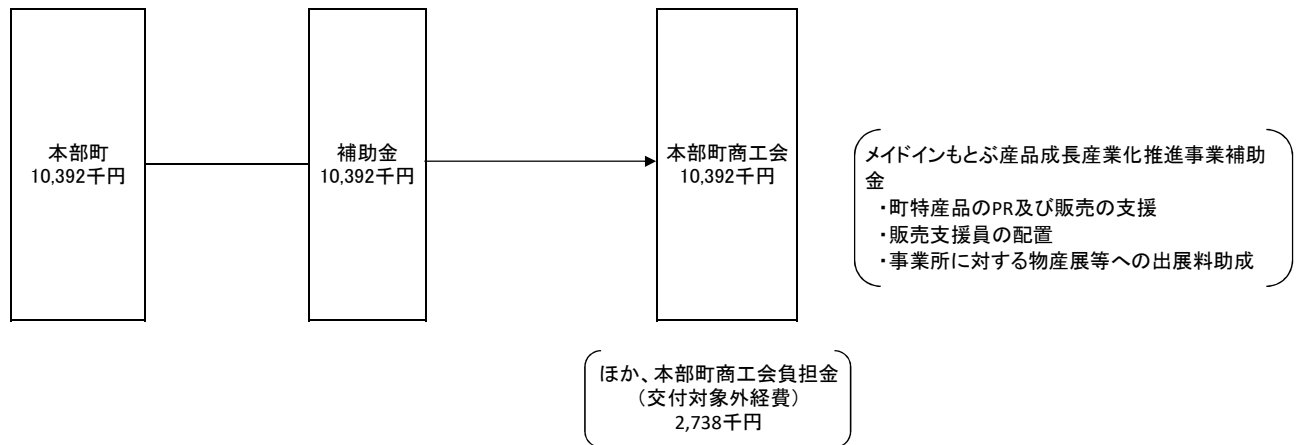
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・町内外の物産展等へ出展し特産品のリストを活用しながらPRを行っているが、現在までの販路については町内販売業者のみとなっており、町外の販路開拓が課題となっている。 ・来場者数が天候に左右されないよう、雨天等でも対応可能な屋内イベントを検討する必要がある。H30年度は、販売支援員を配置している販売店舗が主体となり、海洋博公園内の屋内ブースで特産品フェアを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模店舗や飲食市場等、より効果的な物産展の開催場所を検討しながら町外への販路開拓に努めていく。 ・天候に左右されることなく、県内外から年間500万人訪れる場所で特産品フェアを開催することで、より多くの来場者にPRを行うことができた。

今後の取り組み方針

・物産展の開催場所について、天候に左右されない場所であることも考慮に入れながら、町外は広域的に商品の価値を高める視点で、町内は自産自消の視点で検討し、町内外での販路開拓・拡大を推進する。
併せて、メイドインもとぶ産品のリストを基に物産展等での販売支援を行い、新規取引契約数の増に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
13,130	10,392	8,313	2,079	2,738



資金の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先は本事業を円滑に実施できる本町唯一の商工会であり、補助要件に照らして選定は妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○人員不足により不用が生じたが、予算は事業内容に沿った適正な規模であったと考えます。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○本事業は町の産品について網羅的に販路拡大を目指していく事業であり、公益性が高く受益者負担は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業費確定時に検査、確認しており、適正である。

市町村名	本部町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	もとぶ産業クラスター形成事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ			
担当部署名	企画商工観光課	事業実施(予定)年度	平成29~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所			
事業内容	町内特産品製造事業者に、特産品開発に係る助言や製造機械の導入の支援を行い、売上の向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	55,000	24,750			
		(b) 予算現額	48,255	24,750			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 6,745	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	48,255	24,750			
	執行状況	B. 執行済額	47,962	24,750			
		うち交付金充当額	38,369	19,800			
		次年度繰越額	0	0			
	執行率(%) (B/A)	99.4%	100.0%				
予算の状況の説明	当初予算額のとおり執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	・もとぶ産品製造事業所の支援(ブランディング) (製造環境の向上) (事業所連携による新たな特産品の開発)	目標	()	()	()	()	
		実績	6社	2社			
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	町の地域資源を活用した特産品開発について、公募から選定した2社に対して支援を行い、商品パッケージデザイン制作等のブランディング、製造環境向上に係る機械整備、サンプル品製作や成分分析等を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	①ピーリングジェル販売額:5,040千円 ②絹ごしマーマレード等販売額:518千円 ③ブレンドティー等販売額:1,080千円 ④シークワサーだいふく等販売額:1,312千円 ⑤エーシーシャンプー等販売額:2,036千円 ⑥シークワサーあまぎけソルベ販売額:525千円	目標	()	()	()	()	
		実績		①1,372千円 ②996千円 ③922千円 ④93千円 ⑤950千円 ⑥264千円			
	進捗状況説明	商工会が中心となって特産品コンテストへの出品やメイドイン・もとぶ産品成長産業化推進事業を活用した販売促進を行った。H29年度に開発した①~⑥の商品のうち、②絹ごしマーマレード等については目標を達成したが、全体の販売目標に対して売上は44%の達成状況となっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度に開発した5商品が目標の販売額を達成しておらず、開発後の商品に対する指導助言が必要である。 ・開発事業者が原料の安定供給を受けるため、原料の調達先であり、農家からの供給量・時期について調整機能を果たしている直売所に対して優先供給の協力を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者のフォローアップを行い、問題点を把握し、売れる体制づくりをしていく必要がある。 ・原料の優先供給について連携することで、開発事業者が継続的な生産を行う体制が整っている。

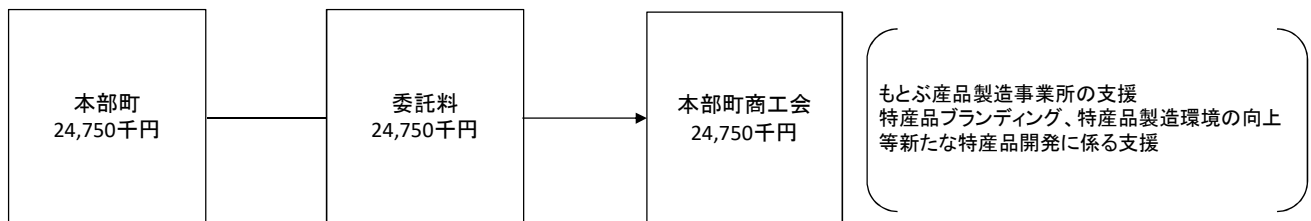
今後の取り組み方針

・各事業者の問題点などを整理し、必要に応じて商品の改良等の指導助言を商工会と連携して行い、開発した特産品をブラッシュアップしていく。また、販売方法については、自社販売や地元お土産品店だけではなく、物産展への出展や量販店等との商談を進め販売促進を図る。

・原料の優先共有については、今後も開発事業者等の求めに応じて、調達先との連携を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
24,750	24,750	19,800	4,950	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は本事業を円滑に実施できる本町唯一の商工会であり、支出先として妥当である。 ○当初の計画のとおり、全額執行しており、予算規模は適正なものであった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①		本部型就業意識向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
	担当部署名	企画商工観光課	事業実施(予定)年度	平成29~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援 Ⅲ-2	
事業内容	町内小中高校生の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、インターンシップ等を行い、町内産業への理解や興味を深めてもらう。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	9,885	10,177			
		(b) 予算現額	9,885	10,177			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
		A. 計(b+d)	9,885	10,177			
	B. 執行済額		9,671	10,061			
	うち交付金充当額		7,736	8,049			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		97.8%	98.9%			
予算の状況の説明		不用額116千円は補助金額の確定によるものであり、当初の事業計画とおり、予算を執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	ジョブシャドウイング、職場体験、インターンシップの実施(9校)	目標	(9校)	(9校)	()	()	
		実績	9校	9校			
	教職員向けマナー研修の実施(1回)	目標	(1回)	(1回)	()	()	
		実績	1回	1回			
	企業プレゼン大会の実施(1回)	目標	(1回)	(1回)	()	()	
		実績	1回	1回			
	町内企業体験学習会(わくわくワーク)の実施(3回)	目標	()	(3回)	()	()	
		実績		3回			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 本部町内全小中高校のジョブシャドウイング6回及び職場体験3回、インターンシップ1回を実施することができた。事前学習において目標を持って臨むこと、マナーの重要性等を理解したうえで各体験に取り組んだ。 教育現場で挨拶や敬語等のマナーが実践できるよう、教職員向けマナー研修を実施した。 本部町内企業8社による企業プレゼン大会により、魅力ある職場体験プログラムを児童生徒へPRした。 主に町内の小学生を対象に町内企業体験学習会(わくわくワーク)を3回実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	小中高生へのアンケートを実施し、働くことへの興味・関心が湧いた(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		94.9%			
進捗状況説明	本部町内小中高校生へ、各ジョブシャドウイング・職場体験・インターンシップの実施後にアンケートを取り、352人(92.1%)から回答を得た。集計の結果、「将来仕事をしたいと思いますか?」の問いに対し、「思う・まあ思う」の割合が94.9%となり、目標を達成した。ジョブシャドウイング・職場体験・インターンシップの事前学習を各学校に合わせた内容で実施することにより、自分自身の長所を知ること、マナーの必要性、目標を持ち臨むことを理解したうえで実践することにより多様性に富んだ取組となっており、児童生徒の基礎的汎用的能力の底上げも見られる。						

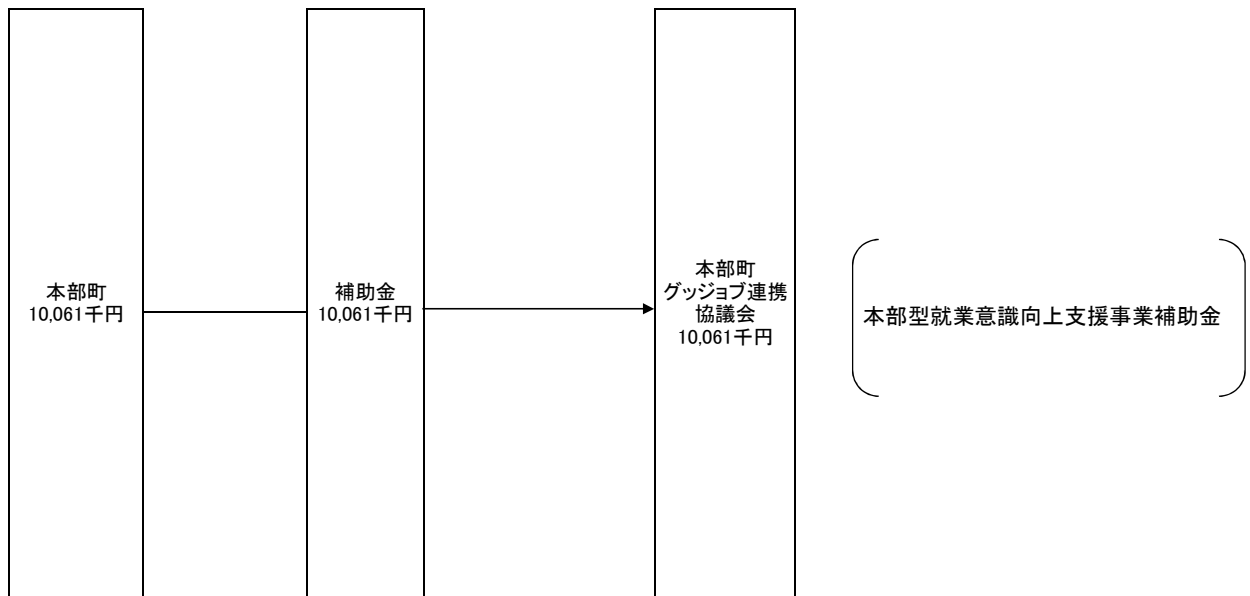
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の希望職種の多様化や町内の参入企業増のため、新規の受入企業を開拓する必要がある。 ・職場体験やジョブシャドウイングは事前学習も含め定着し成果も出ているが、事後学習をより充実させ、年間を通したプログラムを実施することがより効果的であると考え。 ・児童生徒は学校や親以外の「大人との交流」が少ないため、働くことに対する「理想や夢」を「目標」に変えるためのロールモデルを提示することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へ希望調査を行うとともに、新規参入企業について照会をかけ、協力を依頼する。 ・事後プログラムとして、地域人材を学校に招き講話を行うなど、児童生徒と地域人材の交流機会を増やし、ジョブシャドウイングや職場体験・インターンシップが一過性のイベントにならないよう取り組む。 ・児童生徒の理想とする「ロールモデル」を地域人材から発掘し、「郷土愛や働く意義」についてのロールモデル＝「カッコいい大人」を児童生徒が発見できるような機会を作る。

今後の取り組み方針

- ・企業訪問等により各企業が実施可能な内容を把握し、児童生徒の希望職種を踏まえながら受入企業の開拓を行う。
- ・各学校で地域学習の時間を確保し、地域人材による「企業人講話」や「出前授業」を実施する。職場体験やジョブシャドウイングを経て講話等を行うことで、「働くこと」についてイメージしやすく、「働く意義ややりがい」について学ぶ機会とする。
- ・地域人材による「企業人講話」等を活用し、児童生徒自身がロールモデルを発掘することができるよう交流機会を設ける。また、資料として「地域人材紹介冊子」を作製し各学校へ配布を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,061	10,061	8,049	2,012	0



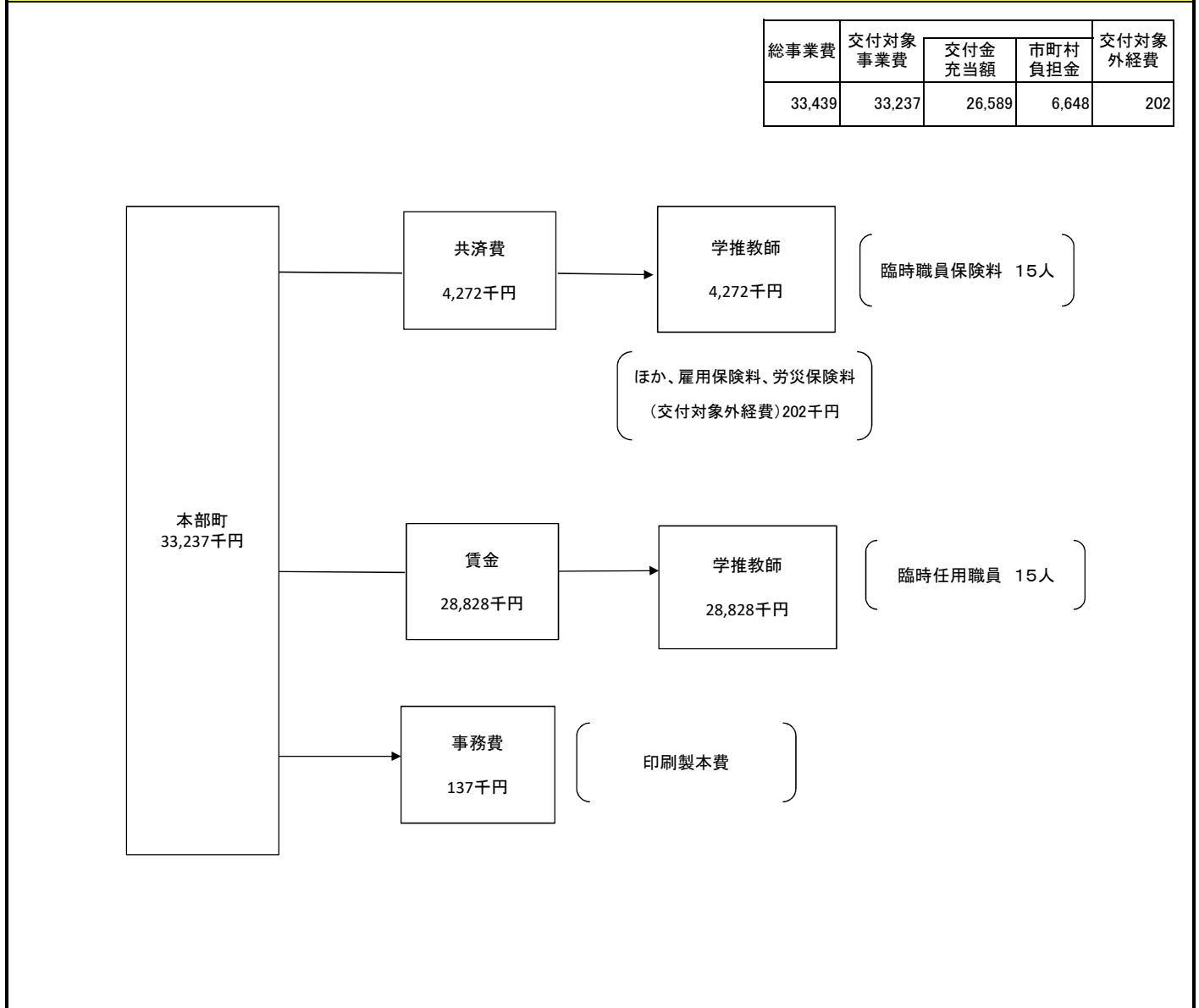
資金の流 れ、 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本部町グッジョブ連携協議会はキャリア教育支援を行うことを目的に平成26年に設立された本町唯一の団体であり、補助先として妥当であると考え。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費用、使途等については補助金申請時に事業目的に沿っているものか確認し交付決定を行っており、実績報告をもって額の確定をおこなった結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町				
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	4-①	本部町学力向上学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 III-3
事業内容	町内小中学校に学習支援員を配置し、国語、算数、数学、英語及びその他の主要教科において、児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことにより、学力の向上を図る。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a) 当初予算額	21,407	34,132	35,136	35,636
	(b) 予算現額	21,407	34,986	35,521	34,575	35,172
	(c) 増減額(b-a)	0	854	385	▲ 1,061	0
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)	21,407	34,986	35,521	34,575	35,172
	B. 執行済額	21,149	34,339	33,549	33,289	33,237
	うち交付金充当額	16,918	27,470	26,839	26,631	26,589
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	98.8%	98.2%	94.4%	96.3%	94.5%
予算の状況の説明		途中退職等に伴う後任の学習支援員が配置できない期間があり、1,935千円の不用額が生じた。				
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	町立小学校 5校へ配置	目標	(5校)	(5校)	(5校)	(5校)
		実績	5校	5校	5校	5校
	町立中学校 2校へ配置	目標	(2校)	(2校)	(2校)	(2校)
		実績	2校	2校	2校	2校
達成状況説明	当初の予定通り小学校5校へ10人、中学校2校へ5人の学習支援員を配置した。授業中の支援、放課後の補習、夏休み期間中の地域学習教室の開催といった学習支援を行うことで、学力の向上を図った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		平成30年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 小学校 -4.6ポイント以上	目標	(-4.6)	(-4.6)	()
		実績	-9.75	-4.06		
	平成30年度沖縄県学力到達度調査での県平均正答率との差 中学校 -2.5ポイント以上	目標	(-2.5)	(-2.5)	()	()
		実績	-3.56	-5.57		
	進捗状況説明	沖縄県学力到達度調査における小学校教科別の県平均との差は、国語、県57.80、町53.25、差-4.55ポイント。算数、県64.18、町61.05、差-3.13ポイント。理科、県56.20、町51.70、差-4.50ポイントとなる。 中学校におけるの県平均との差は、国語、県57.30、町52.20、差-5.10ポイント。数学、県52.30、町54.55、差2.25ポイント。理科、県43.30、町32.60、差-10.70ポイント。社会、県41.40、町35.30、差-6.10ポイント。英語、県54.60、町46.40、差-8.20ポイントとなる。 小学校の各教科合計の県平均との差は、県59.39、町55.33、差-4.06ポイントとなり成果目標は達成できたが、中学校は県49.78、町44.21、差 -5.57ポイントの差となり成果目標は達成できなかった。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>小学校において成果目標の達成に至った要因としては、学習支援員を中心とした、家庭学習支援活動の成果が、徐々に出てきているのではないかとと思われる。</p> <p>中学校においても学習支援員を中心とした家庭学習支援を行ったが、成果目標を下回った。これについては、小学校からの積み重ねで、学力が形成されることを考えると、まだまだ基礎学力の定着には至っていないと考えられる。</p> <p>学習面で児童生徒個々のつまづきに応じた、きめ細かな支援が必要ではあるが、現状ではそこまで対応できていないと考えられる。</p>	<p>①引き続学校現場、教育委員会が一丸となって学推教師のサポートを行うとともに、学習支援員の指導力の向上を図る。</p> <p>②児童生徒個々の苦手教科、単元等の把握、分析をしっかりと行うことで、基礎学力の向上及び定着を図る。</p> <p>③各教科ドリルやICT機器を活用し、放課後の補習や、夏休み期間中の地域学習教室にて、基礎学力の向上を図る。</p>

今後の取り組み方針
<p>①学習支援員同士の情報交換(良い教材の紹介など)や、町教育委員会の指針(成果目標を達成するための指導)を伝える場を設ける。また、学期に1回程度研修会または、情報交換を随時行い、指導の質の向上につなげる。</p> <p>②日々の授業や、県到達度調査等テスト結果の分析を行い、補習や地域学習教室にて実践できるように各学習支援員がしっかり教材研究を行う。</p> <p>③基礎学力の向上のため、毎日の家庭学習支援活動をさらに推進し、教科書以外のドリル等を活用し、基礎問題の徹底的な繰り返し学習を行う。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○学習支援員は公募・面接により選考しており、選定方法は妥当であると考えます。</p> <p>○配置できない期間に伴う不用額が生じているが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。</p> <p>○費用・用途の必要性及び執行状況を確認しており適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

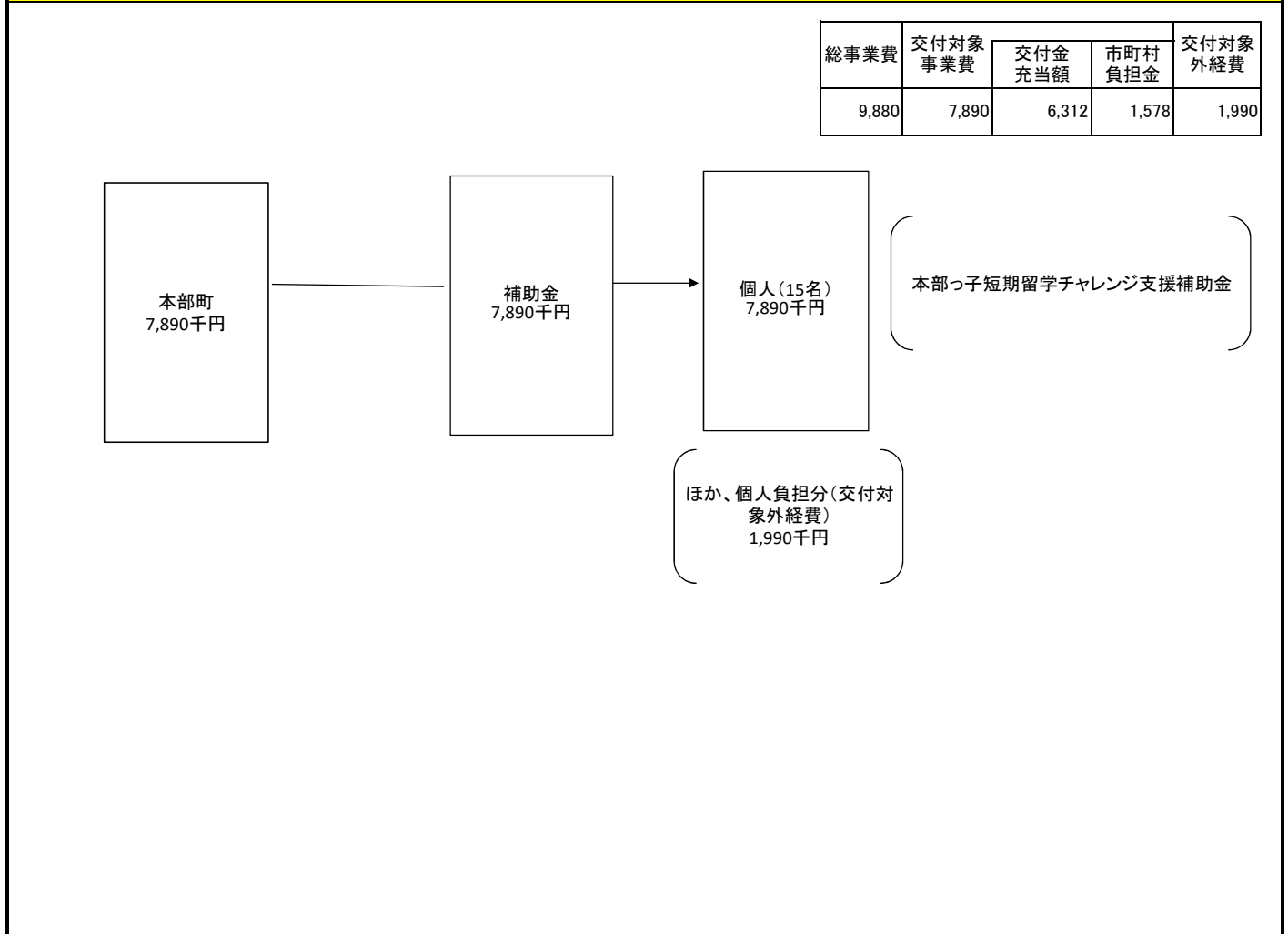
市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②		本部つ子短期留学チャレンジ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-イ	
	担当部署名	教育委員会		事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界と共生する社会の形成
事業内容		町内の中高生を英語圏(アメリカ・ワシントン州)へ派遣し、海外での生活や体験を通して、国際的な広い視野をもつ人材を育成する。					III-3
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,200	4,800	6,000	7,965	
			3,200	4,800	6,000	7,965	
			0	0	0	0	
			-	-	-	-	
			3,200	4,800	6,000	7,965	
	B. 執行済額		3,175	4,584	6,000	7,890	
	うち交付金充当額		2,540	3,667	4,800	6,312	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.2%	95.5%	100.0%	99.1%	
予算の状況の説明		不用額75千円は事業実績によるものであり、当初の計画通り派遣事業を実施することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	町内の中高生を英語圏へ短期間派遣(2週間)		目標 (短期間派遣)	(短期間派遣)	(短期間派遣)	(短期間派遣)	
			実績	短期間派遣	短期間派遣	短期間派遣	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	高校生8名、中学生7名の計15名をアメリカ合衆国(ワシントン州)へ、平成30年7月24日から平成30年8月8日(16日間)の短期間派遣することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する		目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績	100%			
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	帰国後の9月に保護者アンケート調査を実施した。集計した結果、生徒の国際的な視野がより広まったと感じたとの回答が100%であった。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 目的達成を測る手段として、今年度から保護者へのアンケートを導入し、帰国後、生徒の国際的な視野が広がったかを検証している。 派遣後の生徒アンケートでは、派遣先での体験活動や周囲の環境に慣れるまでにある程度の時間を要するため、外国人とのコミュニケーション等を自主的に始めた頃に終了を迎えてしまい、派遣期間が短いという意見が多くみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート結果から、本事業が国際的な広い視野をもつ人材育成に一定程度寄与していることが確認できた。 派遣期間延長については、夏休み前の派遣となる可能性や、保護者の費用負担が増えることへの懸念もあるため、検討する必要がある。

今後の取り組み方針

- 引き続き保護者アンケートを実施しながら、中高生の海外派遣に取り組んでいく。
- 派遣期間の延長について、学校や保護者に対してヒアリングを実施するなど検討し、更なる事業効果の向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用 目 録	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先の選考方法については、学校長からの推薦がある生徒を選考審査会にて審査しており、妥当であった。 ○不用額は事業費の0.9%であり、適正な規模であった。 ○受益者である派遣生は、派遣費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、用途については額の確定時において確認を行い、目的に則し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	学校ICT機器整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成28~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 III-3		
事業内容	町内小中学校へのICT環境整備(無線LANの環境整備、タブレットPCなどのICT機器整備)及びICT支援員の配置により、ICT機器を活用した分かりやすい授業を展開することで、学校教育の質の確保を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
		(a) 当初予算額	12,528	22,143	17,971		
	(b) 予算現額	12,528	21,330	17,971			
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 813	0			
	(d) 繰越額	-	-	-			
	A. 計(b+d)	12,528	21,330	17,971			
	B. 執行済額	12,204	21,330	17,236			
	うち交付金充当額	9,763	17,604	13,789			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	97.4%	100.0%	95.9%			
予算の状況の説明	執行率は95%で、予算は適正に執行できた。不用額については、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	無線LANの環境整備 2校	目標	(3校)	(3校)	(2校)	()	
		実績	3校	3校	2校		
	タブレット等の購入設置 83台	目標	(タブレット等の設置65台)	(タブレット等の設置143台)	(タブレット等の設置83台)	()	
		実績	タブレット等の設置65台	タブレット等の設置143台	タブレット等の設置83台		
	大型モニタの購入設置 12台	目標	(大型モニタ等の設置11台)	(大型モニタ等の設置11台)	(大型モニタの設置12台)	()	
実績		大型モニタ等の設置11台	大型モニタ等の設置11台	大型モニタ等の設置12台			
ICT活用支援員 1名配置	目標	(1人配置)	(1人配置)	(1人配置)	()		
	実績	1人配置	1人配置	1人配置			
達成状況説明	予定通り2校への無線環境の整備、83台のタブレット設置、12台の大型モニタの設置を行うことができた。ICT活用支援員を1人配置し、機器の活用支援を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する	目標	()	(80%)	()	()	()
		実績		77%			
	教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する	目標	()	(80%)	(-)	()	()
実績			95%	-			
進捗状況説明	アンケートは、11月と3月に実施した。集計した結果、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合は、77%と目標に届かなかったが、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合については、95%で目標を達成した。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合) ・各学校にICT機器活用のリーダーとなる先生を任命し、リーダーを中心に学習アプリの選定や効果的な活用方法を検討し、授業でICT機器を無理なく活用できる環境を整えられるよう取り組んだが、分かりやすい授業に繋げるには不十分であったと考えられる。	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合) ・ICT機器と授業展開の連動を強化するため、ICT機器を活用しやすい教科についても検討する必要がある。
	(ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合) ・ICT支援員による教員向けの研修会を開催したことが目標値達成の要因と考えられる。	(ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合) ・ICT機器を活用した授業がスムーズに展開できるよう、更に習熟度を高めていく必要がある。

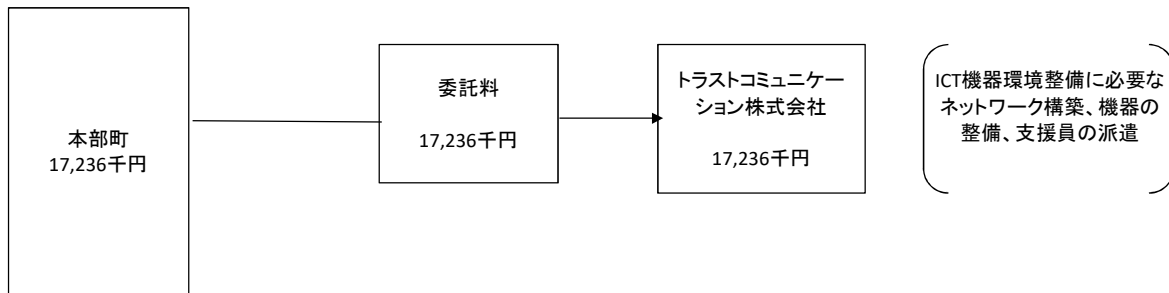
今後の取り組み方針

(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合)
・調べ学習などICT機器を活用しやすい教科について授業との連動性を強化するため、各学校のICTリーダーによる研究会を開催し、児童生徒への分かりやすい授業法の研究を行う。

(ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合)
・各学校のICTリーダーとICT支援員が連携し、引き続き教員に対する研修等を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
17,236	17,236	13,789	3,447	0



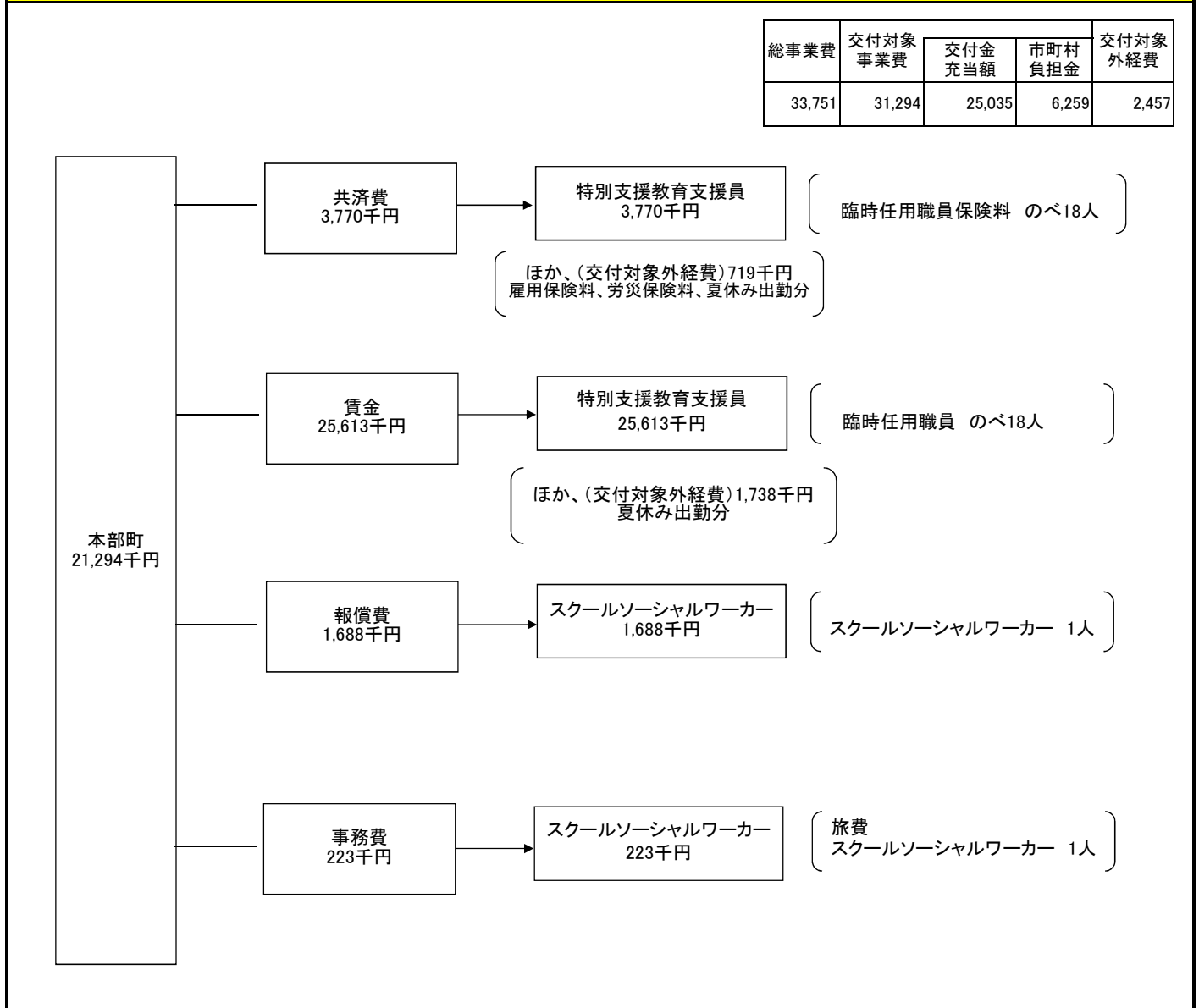
資金の流 れ、 点 検 、 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は入札残によるものであり適正な規模であった。 ○費目、使途に関しては、精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①特別支援教育支援員が、支援を必要とするほぼ全ての児童生徒に対し支援を行えたこと、スクールソーシャルワーカーによる継続した相談活動が目標達成の要因と考えられる。また、事業開始から3年目を迎え、支援員の経験が蓄積され、適切な支援につながりつつある。</p> <p>②支援を必要とする児童等は、支援員と一定の信頼関係が構築されることで安心して学習できるケースが多いため、支援員が継続して就労できる環境づくりが必要である。本年度は支援員を対象とする研修会を開催し、支援活動の不安解消を図った。</p> <p>③本年度はスクールソーシャルワーカーの配置計画を見直し、特別な支援が必要な児童等に対してバランスよく相談活動が実施できたが、業務量が増加し、負担が大きくなっている。</p>	<p>①今後は支援の質をさらに向上させ、支援が必要な児童等の保護者の満足度を高めていく必要がある。</p> <p>②引き続き、学期毎に支援員を対象とした連絡・研修会を開催し、各校の情報共有や支援について意見交換するとともに、賃金改定についても検討する必要がある。</p> <p>③スクールソーシャルワーカーの負担を軽減し、十分な相談活動が行えるよう、スクールソーシャルワーカーの増員および配置計画の見直しを検討する。</p>

今後の取り組み方針

- ①次年度以降も保護者へのアンケートを導入し、特別支援教育に対する学校及び保護者の満足度を把握し、事業の改善を図りながら、より質の高い特別支援教育環境の構築に取り組む。
- ②支援員を対象とする特別教育支援研修会の開催により支援活動の不安解消を図り、賃金の改定と合わせて支援員が継続して就労できる環境づくりを行う。
- ③スクールソーシャルワーカーの増員および配置計画の見直しにより、特別な支援が必要な児童等が在籍する全ての学校でバランスよく相談活動が行えるよう取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の雇用については、条例及び規則に基づき実施している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額が生じているが事業内容に見合った適正な規模と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、出勤日数、休暇処理、日給、保険料計算のための月額報酬等を確認の上、目的に即した必要な支出であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	赤土流出防止検討調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ		
担当部署名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全		
事業内容	本町をはじめ沖縄県内で以前から問題とされてきている海洋への土壌流出について、その発生源に対する対策を実施し、赤土流出を軽減することで環境保全を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H27年度(繰越)	H28年度	H28年度(繰越)	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		20,000	—	6,786	—	15,000
			15,929	—	6,786	—	15,000
			▲ 4,071	—	0	—	0
			—	3,877	—	6,786	—
		9,000	1,941	0	6,786	14,163	
		7,200	1,553	0	5,428	11,330	
		3,877	0	6,786	0	0	
		56.5%	50.1%	0.0%	100%	94.4%	
	予算の状況の説明 当初の計画通り砂防ダムの浚渫を行い、予算は計画通り適正に執行できた。不用額については浚渫工事の入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H30年度	R1年度	
	流出対策事業(工事)実施	目標	(流出対策工事 1箇所)	(流出対策工事 1箇所)	(流出対策工事 1箇所)	()	
		実績	工事1箇所完了	工事1箇所完了	工事1箇所完了		
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明 赤土流出発生源と考えられる砂防ダムの浚渫工事を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	長田川砂防ダム堆積土浚渫量 V=3,688.9m ³	目標	()	(3,688.9m ³)	()	()	()
		実績		3,317.9m ³			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明 赤土流出発生源と考えられる砂防ダムの浚渫工事を実施し、3,688.9m ³ の成果目標に対して3,317.9m ³ の実績となった。残り371m ³ については、次年度以降の浚渫工事への影響を考慮し一次的に保留したものである。							

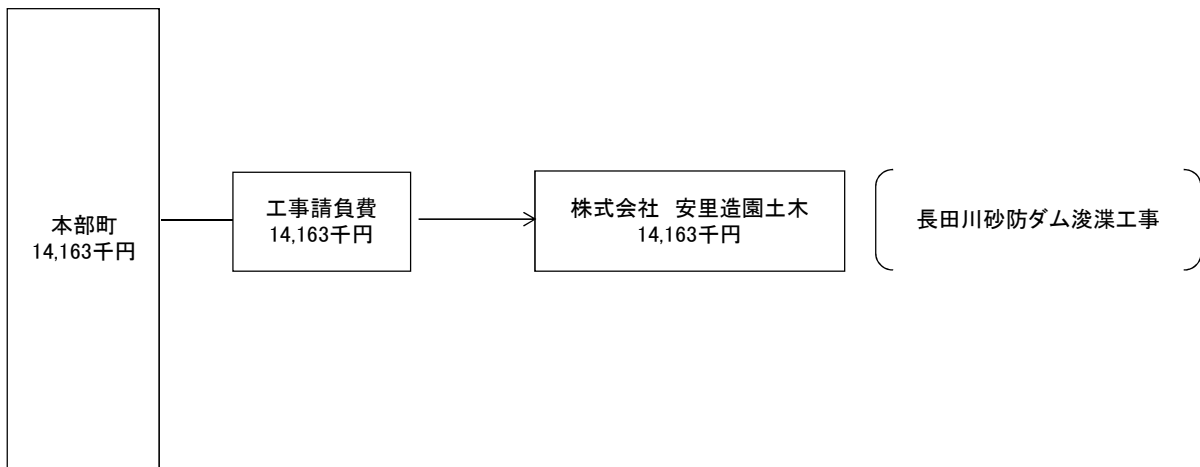
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	成果目標の浚渫量に達さなかった理由は、令和元年度以降の継続事業(浚渫工事)に必要な、砂防ダム内への重機搬入路(スロープ)の確保を優先し、一部浚渫を行わなかったためである。	工事を行わなかった371㎡については、令和元年度に実施することで、2ヶ年度分の浚渫量を確保する。

今後の取り組み方針

令和元年度においても平成30年度に引き続き、赤土流出源の一つである砂防ダムの浚渫を行う。
 今後、砂防ダム内へ堆積する赤土対策など継続管理を行うための砂防ダム内への昇降路(徒歩)や、重機搬入路(スロープ)の確保など、状況に応じて最良案を検討する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

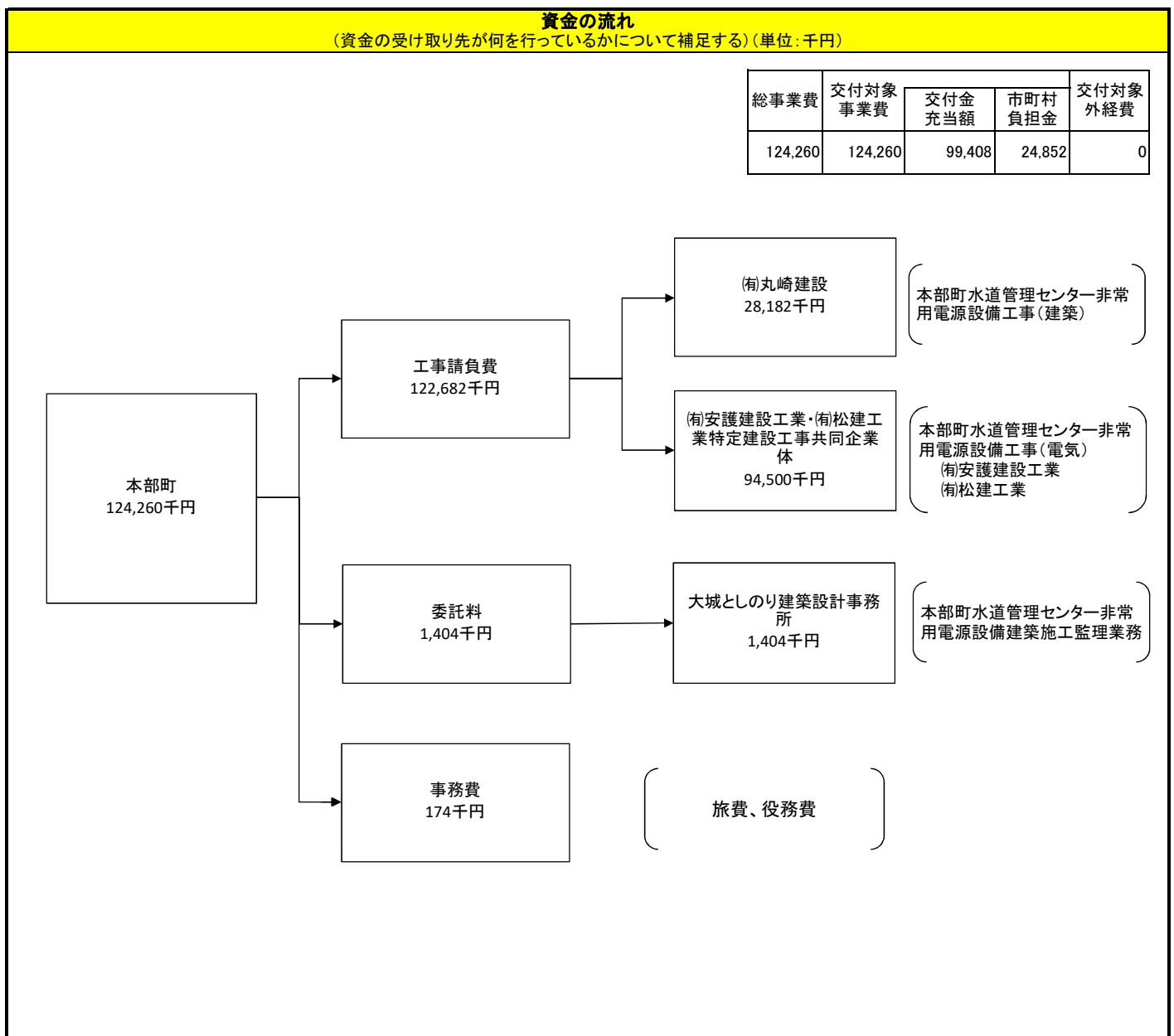
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,163	14,163	11,330	2,833	0



資金の流 れ、 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要性を、事業費確定時において支出等に関する書類により確認し、その結果適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	本部町配水安定化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部署名	上下水道課	事業実施(予定)年度	平成29~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
事業内容	水道管理センターの停電による断水をなくし安定的な水の供給を行うため、非常用電源設備を設置する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
		(a)当初予算額	8,476	133,500			
	(b)予算現額	9,397	133,500				
	(c)増減額(b-a)	921	0				
	(d)繰越額	-	-				
	A.計(b+d)	9,397	133,500				
	B.執行済額	9,397	124,260				
	うち交付金充当額	7,517	99,408				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	100.0%	93.1%				
予算の状況の説明		不用額9,240千円は、数量・単価の精査により当初予定していたよりも設計額が減額となったこと、また、競争入札により入札残が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度		
	水道管理センターにおける非常用電源設備の設置工事の実施	目標	(設計の実施)	(工事の実施)	()	()	
		実績	設計の実施	工事の完了			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	本部町水道管理センターにおける非常用電源設備の設置工事を計画どおり完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R1年度)	
		目標	()	(設計完了)	(設置完了)	()	()
	実績		設計完了	設置完了			
	【R1成果目標】 停電による断水被害 0件	目標	()	()	()	()	(0件)
		実績					
	進捗状況説明	本部町水道管理センターにおける非常用電源設備の整備が完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>今後は安定的な水を供給するために、非常時に問題なく発電機を稼働させる必要がある。</p>	<p>非常時に問題なく発電機を稼働させるため、定期的な設備の維持管理計画を考案する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>年間の維持管理計画を立て、定期的な設備の維持管理を実施していく。 具体的には、月2回の発電機試運転確認および年1回の負荷運転確認(手動で一時的に停電させる)を実施する予定である。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	